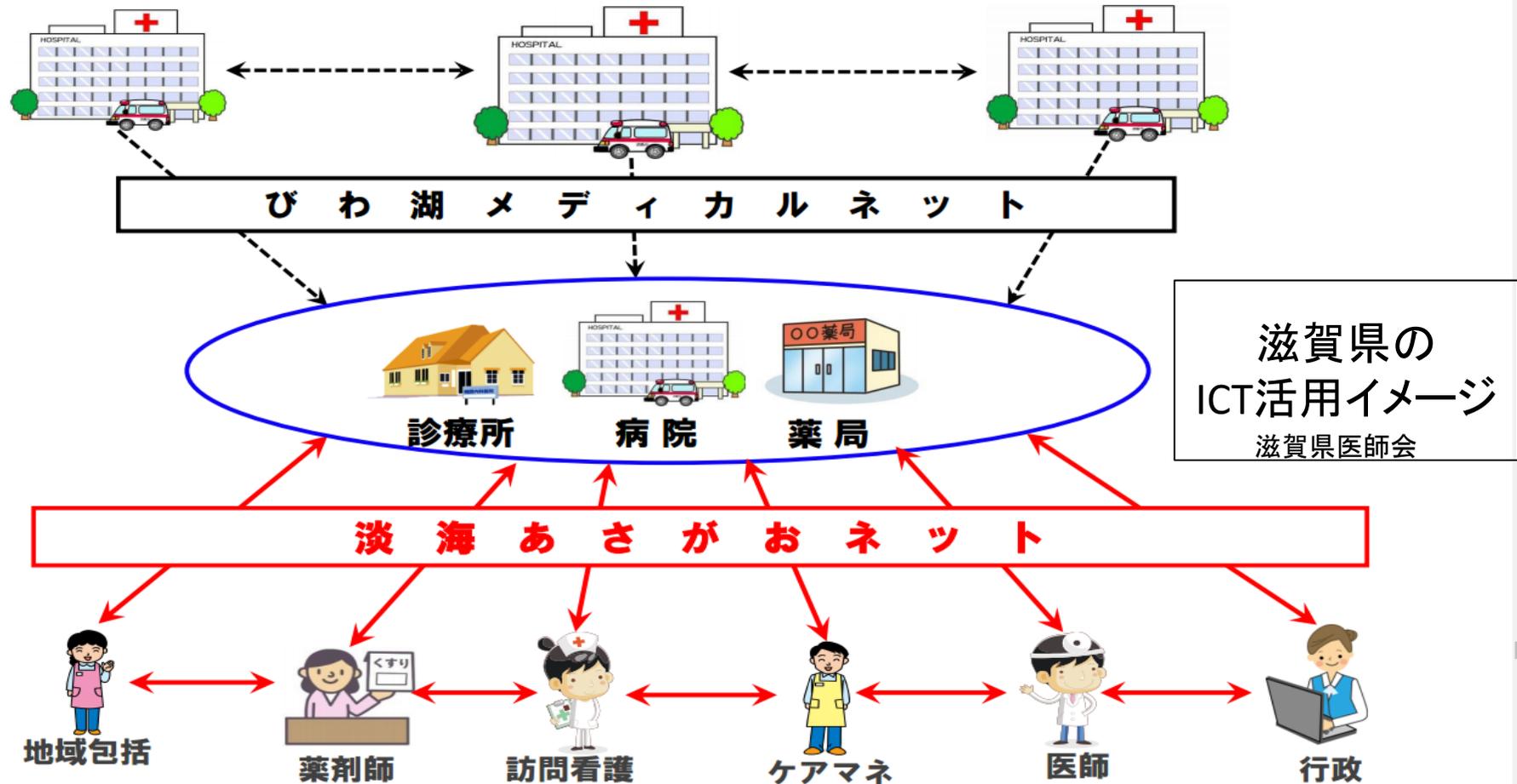


在宅療養支援システム あさがおネットを活用した事例報告



長浜赤十字病院 地域医療連携課長 (兼) 入退院支援室副室長
大橋直美 (看護師 介護支援専門員 医療福祉連携士)

2016.09.15

滋賀県医療情報連携ネットワークシステム 事業全体のイメージ図

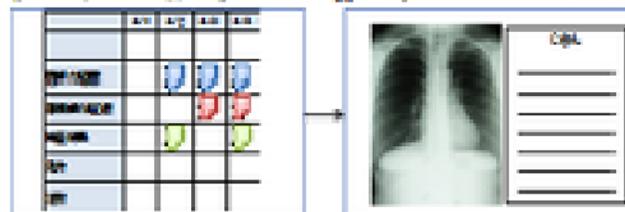
淡海あさがおネット

在宅療養支援者と双方向の情報共有が可能
(県医師会の在宅療養支援システムを利用)

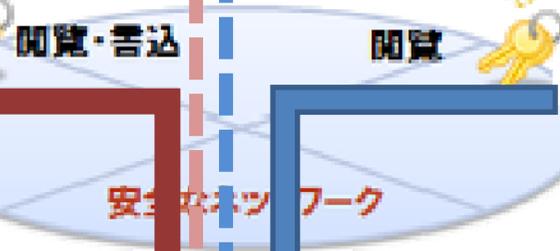


びわ湖メディカルネット

情報提供病院の診療情報の参照が可能
(情報提供病院の地域連携システムを利用)



在宅療養支援システム



情報開示の同意を得た患者
情報のみ複写を格納



在宅療養患者に関わる多職種が登録患者の記録・メモ・申し送り等の情報を共有



同意患者の病院の電子カルテ
情報を開業医が閲覧する
救急搬送時かかりつけ病院情
報閲覧も可能

◆ 淡海あさがおネットの目指すところ



多職種連携: 患者・利用者情報の共有
医療やケアの方向性の共有
双方向性の情報交換
同時性、即時性
(診療情報提供書やFAXでは困難)

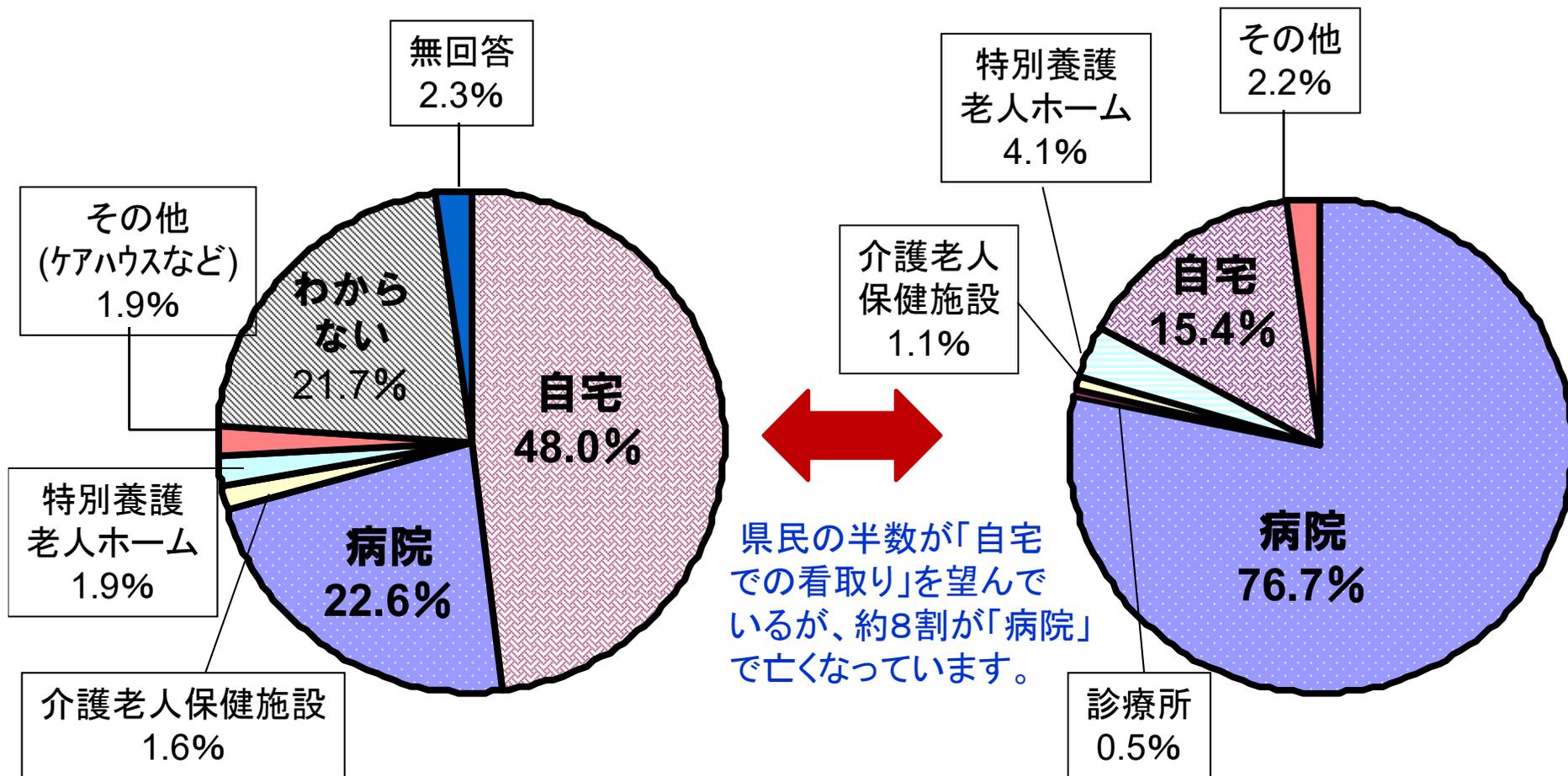
多施設連携: 診療所・病院・介護施設・行政

多様な診療所ネットワーク形成に貢献
教育的効果
地域医療情報として活用(災害時など)



滋賀県民の看取り 理想と現実のギャップ

どこで最期を迎えたいか？ 実際に最期を迎える場所

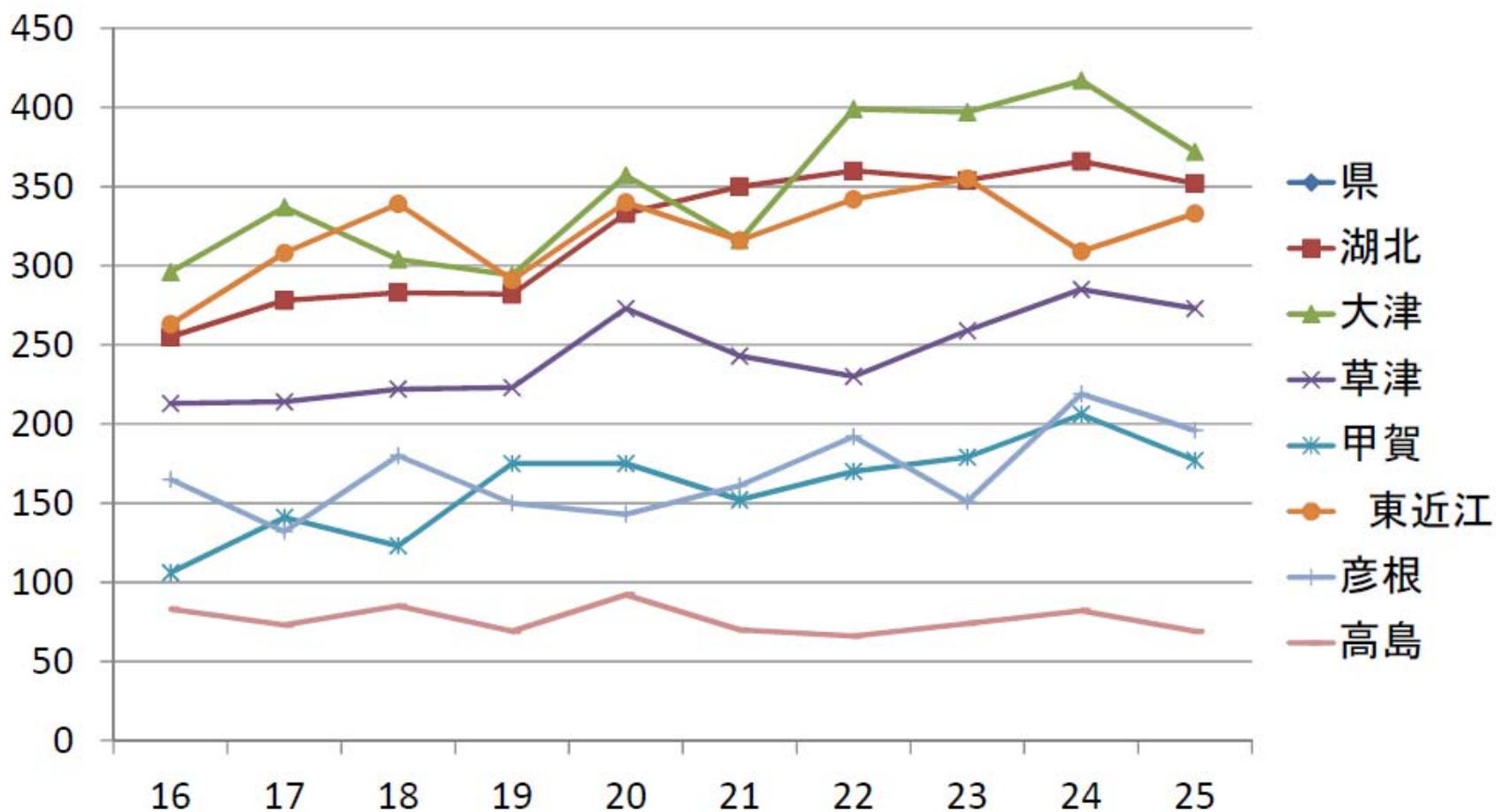


湖北健康福祉事務所資料より

(左グラフ) 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査(平成24年度)

(右グラフ) 平成24年滋賀県死亡数(場所別)厚生労働省人口動態統計を元に作成

場所別死亡状況(実数、人) (自宅)



在宅医療の提供体制サイクル

日常の療養支援

【目標】

患者の疾患、重症度に応じた医療介護を多職種協働により、生活を支える視点から継続的・包括的に提供する

【関係機関】

・病院、診療所 ・訪問看護事業所 ・薬局 ・居宅介護支援事業所 ・地域包括支援センター ・介護事業所 ・介護老人保健施設 ・特別養護老人ホーム

【ポイント】

・住み慣れた地域で、可能な限り医療と介護が包括的に提供される体制の確保 ・在宅療養の拠点の確保
・介護家族の負担軽減に繋がる支援の提供
・在宅医療を提供する関係者の負担軽減のため、チーム医療・同職種間の連携を図り、24時間体制を構築する
・在宅医療に係る資源情報の一元化と有効活用できる仕組み
・医療・介護材料頭の供給を円滑に大なうための体制

看取り

【目標】

患者が望む場所での看取りを行うことができる体制を構築する

【関係機関】

・病院、診療所 ・訪問看護事業所 ・薬局 ・居宅介護支援事業所 ・地域包括支援センター ・介護事業所 ・特別養護老人ホーム ・老人保健施設

【ポイント】

・自分が望む終末期について意思表示できる準備の必要性の周知
・本人の意思に添える他職種連携のチームケアが地域で展開できる仕組み

急変時の対応

【目標】

在宅療養者の病状悪化時等に、入院治療が受けられる体制をバックアップする機能を身近な病院および優勝診療所と連携した体制

【関係機関】 ・病院、診療所 ・訪問看護事業所 ・薬局

【ポイント】

・退院時から在宅療養を安心して行うための体制を整える
・後方病院は、患者情報を適切に把握し、必要時の対応に活かせる体制を確保する

退院支援

【目標】

入院医療機関と、在宅医療に係る機関の円滑な連携により、切れ目のない継続的な医療提供体制を確保する

【関係機関】

・病院、診療所 ・訪問看護事業所 ・薬局 ・居宅介護支援事業所 ・地域包括支援センター ・介護事業所

【ポイント】

・医療介護福祉課題が在宅に継続し、急変時の対応ができる ・病状悪化時の情報を関係者が共有し、調整
・在宅生活においても、定期的に心身機能の評価が行える体制

滋賀県医療情報連携ネットワーク(びわ湖メディカルネット)の運用状況

2016年8月29日現在

圏域	情報提供病院				閲覧施設		地域別実登録患者数
	施設数	施設名	利用者数	病院延べ登録患者数	施設数	利用者数	
大津	5	大津赤十字病院	365	970	16	41	222
		大津市民病院					
		独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院					
		琵琶湖中央病院					
		滋賀医科大学付属病院					
湖西	1	高島市民病院	83	2028	10	34	2413
湖南	5	社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院	337	442	17	52	257
		滋賀県立成人病センター					
		社会医療法人誠光会 草津総合病院					
		守山市民病院					
		滋賀県立小児保健医療センター					
甲賀	1	公立甲賀病院	83	25	9	21	108
東近江	4	近江八幡市立総合医療センター	298	663	16	34	515
		公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院					
		医療法人医誠会 神崎中央病院					
		独立行政法人国立病院機構 東近江総合医療センター					
湖東	3	彦根市立病院	274	2419	36	63	2365
		医療法人友仁会 友仁山崎病院					
		公益財団法人豊郷病院					
湖北	3	市立長浜病院	453	7255	48	95	5942
		長浜赤十字病院					
		長浜市立湖北病院					
県外							47
計	22		1893	13802	152	340	11869

※ 閲覧施設は歯科診療所、薬局、訪問看護ステーションを含む。

※ 登録患者数は、平成26年7月1日(運用開始)以降の登録数とする。

※ 閲覧施設内訳: 病院11か所95人 医科診療所(保健所を含む)109か所185人 薬局27か所42人 訪問看護ステーション5か所18人

あさがおネットの利用

- 平成26年10月～ 地域の医療・介護連携を推進するために当院は協力
- 平成26年12月 「運用マニュアル（湖北版）」
- 当院利用者登録 医師2人 事務（地域医療連携課）4人 MSW7人
看護師（地域包括ケア病棟看護師長1→2人・看護係長3人、
入退院支援室3人 がん診療支援室2人）訪問看護師9人 訪問PT2人
- ネット利用施設一覧表を作成、各部署に配布 「地域医療連携一覧表」
- 平成27年2月12日 取り決め（CM・訪問看護師と協議）
 - ①メールを使う ②ケアマネ・訪問看護師主体で登録患者を増やす。
 - ④「緊急搬送先」に長浜赤十字病院と記載する。
- 院内
 - ①〈びわ湖メディカルネット〉〈あさがおネット〉
〈あんしん連携カード〉の3セットで運用しよう。
 - ②MSWから退院時にケアマネさんをお願いしよう
 - ③訪問看護ステーションが利用促進 患者登録

淡海あさがおネット運用マニュアル（湖北版）

利用者間の情報共有が可能な帳票類	あさがおネット登録患者の帳票	利用者間の通信可能な帳票	全職種
主治医 (有印文章のため別途紙媒体で提出が必要)	主治医意見書 訪問看護指示書（特別訪問看護指示書・ 訪問点滴指示書） ケアプラン案に関する診療情報提供書	居宅療養管理指導	<ul style="list-style-type: none"> 日々の記録は「記録管理」に記載 血液検査や画像（J P E G）は記録管理または患者メモに登録可能 患者説明同意書における緊急搬送先病院の記載は同意を得たシステム利用者が記載する（中央センターで、緊急搬送先病院に登録し緊急搬送先病院において閲覧可能となる） 患者登録は全ての利用者で可能とする（登録前に連携施設・連携担当者に了解を得ておく事が望ましい）
ケアマネージャー	フェイスシート 居宅サービス計画書（1）（2） 週間サービス計画表 担当者会議録 住宅改修関連書類	フェイスシート 居宅サービス計画書（1）（2） 週間サービス計画表 担当者会議録 住宅改修関連書類	
訪問看護ステーション	訪問看護計画書・報告書 医療材料計画書・報告書 褥瘡対策に関する計画書・報告書	訪問看護計画書・報告書 医療材料計画書・報告書 褥瘡対策に関する計画書・報告書	
病院	看護サマリー 退院時共同指導票 介護支援連携指導票	看護サマリー 退院時共同指導票 介護支援連携指導票	
保険薬局（登録先は服薬情報）	服薬（処方箋）お薬手帳 在宅薬剤管理指導	在宅薬剤管理指導 在宅薬剤管理指導	
地域包括支援センター	介護予防プラン	介護予防プラン	

＜ 注意事項 ＞

- ・ 人生の最終段階の意向については患者基本画面の「合意事項」に時系列で記載。根拠となる書類（エンディングノートや担当者会議録）がある事が望ましい
- ・ 帳票作成者は上記の書類を登録する事は可能も、その判断の是非は作成者に委ねる
- ・ 帳票はPDF化して患者メモに登録する（調剤薬局は服薬情報）
- ・ 登録患者でなくても利用者間での通信は可能。添付文章として可能な帳票を上記に記載
- ・ 現在、びわこネットと淡海あさがおネットの連結は長浜赤十字病院のみ（市立長浜病院は27年度の予定）
- ・ 長浜赤十字病院では淡海あさがおネットでケアマネさんにカンファレンスの連絡を行う

平成 26年 12月作成 あさがおネット利用促進会議
平成 27年 1月運用開始

利用の実際

1. 研修案内 複数チャンネルで案内
皆さん、見ていただいていますか
2. 長浜米原地域医療支援センター 湖北医師会との連絡
3. 訪問看護ステーション
 - ①外来受診を前に病状報告、
 - ②訪問看護サマリー送付（郵便代がかからない）
 - ③相談
 - ④画像送付
3. 調剤薬局 居宅薬剤指導に関して
4. 退院調整時の情報共有、継続診療依頼（往診含む）

使ってみて

【感想】

1. びわ湖メディカルネットや安心れんけいカードと相乗効果で、患者に途切れのない医療サービスの提供ができる。在宅生活と医療・介護を切れ目なく繋ぐことができ、在宅療養患者にとって心強く**安心感**。
2. 患者に良い医療や介護を受けるために、多職種が**協働**できる良いツールとなる可能性。
3. 面倒だけど、コミュニケーションができ、多職種が繋がる感じ。
4. **業務改善**ができる感じはない。

【これからの課題】

1. メール、多職種での患者情報の共有に便利な面がある
電話の方が早い事もあるが、電話してもお互い留守有り。
使い慣れること 院内・外で使う仲間を増やしていく。
2. 利用しやすいネット環境をつくる。
3. 患者情報を添付する時に簡単に掲載できる方法の検討。
4. 病院は、誰が窓口になるのか？ 退院したらご縁が切れる